

4 震災前の水準まで回復した鉱工業生産

本県の鉱工業生産は、2008年9月のリーマンショックによる世界的な景気後退を背景に輸出が急減し、戦後類のない急速かつ大幅な落ち込みを記録した後、輸送機械工業など輸出ウェイトの高い業種を中心として持ち直しの動きがみられた。こうした中、11年の生産は、3月に発生した東日本大震災の影響を受けて急激に落ち込むこととなったが、サプライチェーンの復旧に伴って急速に回復し、震災から5か月後の8月には震災前の水準回復を果たした。年後半にはタイの洪水被害の影響もあり、一進一退の動きがみられたが、年末にはおおむね震災前の水準を回復し、総じてみると持ち直し基調で推移した。

(前年比で低下した生産指数)

2011年の鉱工業生産指数は84.6で前年比7.6%の低下となり、2年ぶりに前年を下回った。業種別にみると、全22業種中、輸送機械工業、情報通信機械工業、窯業・土石製品工業など14業種で低下し、一般機械工業、化学工業、食料品工業など8業種で上昇した(図表4-1)。

図表4-1 2011年の業種別生産指数(愛知県)

	ウェイト	指数	対前年増減率	寄与度
鉱工業	10000.0	84.6	-7.6	-7.6
鉄鋼業	646.2	88.3	-3.0	-0.190
非鉄金属工業	139.1	85.7	-7.8	-0.109
金属製品工業	352.7	83.8	-6.1	-0.208
一般機械工業	1207.4	79.5	13.6	1.252
電気機械工業	456.6	96.5	1.9	0.090
情報通信機械工業	182.7	51.9	-42.4	-0.762
電子部品・デバイス工業	262.1	81.3	-11.9	-0.315
輸送機械工業	4549.8	84.6	-13.6	-6.606
精密機械工業	33.2	86.4	-4.6	-0.015
窯業・土石製品工業	352.6	73.2	-15.2	-0.504
化学工業	267.9	110.7	7.2	0.216
石油・石炭製品工業	33.6	96.7	4.4	0.015
プラスチック製品工業	463.2	88.0	-7.2	-0.344
パルプ・紙・紙加工品工業	84.4	89.6	-1.2	-0.010
繊維工業	149.3	63.1	-0.3	-0.003
食料品工業	400.6	94.2	3.0	0.118
ゴム製品工業	166.0	97.4	-0.1	-0.002
家具工業	89.2	79.0	-10.6	-0.092
印刷業	113.8	66.8	-24.0	-0.262
木材・木製品工業	31.8	63.9	7.6	0.016
その他製品工業	14.5	78.6	1.0	0.001
鉱業	3.3	62.5	3.5	0.001

注:ウェイトは付加価値額ウェイト
資料:愛知県統計課「愛知県鉱工業指数」

(全国と本県の状況)

本県と全国における鉱工業生産に占める業種別のウェイト(2005年基準)をみると、本県では、輸送機械工業が45.5%と際立って大きく、これに次ぐ一般機械工業が12.1%と、この2業種だけで全体の60%近くを占めている。逆に、IT関連品目の多い情報通信機械工業は1.8%、電子部品・デバイス工業は2.6%と2業種合せても4.4%であり、IT産業の占める割合が非常に低いという特徴を備えている。

図表4-2 2011年の業種別生産指数(全国)

	ウェイト	指数	対前年増減率	寄与度
鉱工業	10000.0	92.2	-2.3	-2.3
鉄鋼業	599.7	91.1	-2.9	-0.172
非鉄金属工業	211.7	86.4	-4.5	-0.092
金属製品工業	566.8	81.5	-1.9	-0.096
一般機械工業	1318.2	92.1	11.2	1.299
電気機械工業	607.3	94.9	0.5	0.032
情報通信機械工業	433.4	71.0	-22.5	-0.946
電子部品・デバイス工業	799.3	114.4	-9.4	-1.008
輸送機械工業	1685.8	85.3	-9.7	-1.643
精密機械工業	102.0	115.1	9.5	0.108
窯業・土石製品工業	293.0	84.0	-1.4	-0.037
化学工業	1181.3	104.2	3.4	0.425
石油・石炭製品工業	99.9	85.9	-5.7	-0.055
プラスチック製品工業	383.7	87.6	-2.4	-0.089
パルプ・紙・紙加工品工業	241.0	86.1	-3.4	-0.077
繊維工業	200.9	68.3	0.6	0.009
食料品・たばこ工業	721.2	102.0	-0.4	-0.031
ゴム製品工業	153.6	89.0	-1.4	-0.021
皮革製品工業	12.3	59.5	-0.5	0.000
家具工業	85.3	70.3	0.1	0.001
印刷業	180.7	106.6	-2.4	-0.050
木材・木製品工業	57.3	74.5	2.6	0.012
その他製品工業	44.7	43.1	0.5	0.001
鉱業	20.9	90.8	0.9	0.002

注:ウェイトは付加価値額ウェイト
資料:経済産業省「鉱工業指数」

一方、全国では、輸送機械工業が16.9%、一般機械工業が13.2%、合計で30.1%となり、この2業種が占めるウェイトは、本県での割合の約半分となる。逆に、IT関連品目の多い情報通信機械工業は4.3%、電子部品・デバイス工業は8.0%と2業種合わせると12.3%となり、本県での割合の3倍近くを占めている。

このように、本県と全国では業種別のウェイトに大きな差があることもあり、生産指数の動きにも異なる様相がみられることがある。

本県の生産指数の動きを四半期別にみると、リーマンショックによる世界同時不況の影響を受けて、08年7-9月期に02年4-6月期以来25四半期ぶりに前年割れに転じて以降、10-12月期は前年同期比21.9%減、09年1-3月期は同47.5%減と輸出依存度の高い輸送機械を中心に生産活動が急速に低下し、全国を上回る大幅な落ち込みを記録した。その後、海外経済の改善や世界各国で採られた経済対策の効果もあって、マイナス幅は徐々に縮小し、10年1-3月期には前年同期比がプラスに転じた。4-6月期以降は伸びが鈍化するも前年を上回る水準が続いていたが、東日本大震災によって生じたサプライチェーンの寸断により、11年1-3月期は同10.9%減、4-6月期は同20.8%減と再び全国を大きく上回る落ち込みを記録した。しかし、その後、サプライチェーンの復旧が急速に進んだ結果、マイナス幅は急速に縮小し、10-12月期には前年同期比がプラスに転じ、12年にかけてプラス幅が拡大した。生産指数については、11年7-9月期に震災前10年10-12月期の水準を回復し、12年に入っても上向きの動きが続いた。

一方、全国も、本県とほぼ同様の動きを示し、リーマンショックによる世界同時不況の影響を受けて、08年7-9月期に05年7-9月期以来12四半期ぶりに前年割れとなり、10-12月期は同14.5%減、09年1-3月期は同34.6%減と大きく落ち込んだ。その後は経済対策等の効果で、マイナス幅は徐々に縮小し、10年1-3月期には前年同期比がプラスに転じ、4-6月期以降は伸びが鈍化するも前年を上回る水準が続いていたが、震災の影響により、11年1-3月期は同1.3%減、4-6月期は同5.8%減となった。年後半にはタイの洪水被害の影響からマイナス幅が若干拡大したが、12年に入り前年同期比がプラスに転じた。生産指数については、11年7-9月期におおむね震災前の水準を回復し、12年にかけて横ばい圏内の動きとなった(図表4-1、4-2、4-3、4-4、4-5)。

図表4-3 生産指数の推移(愛知県・全国)

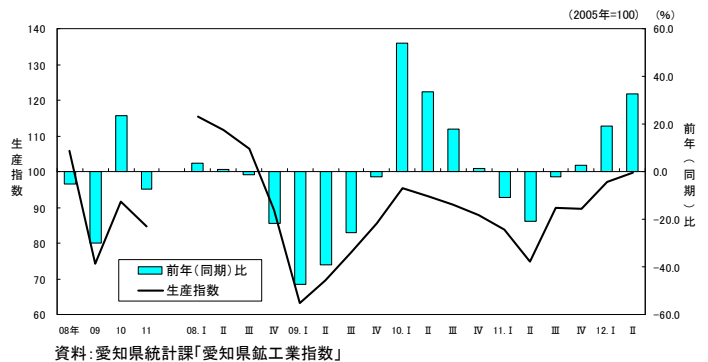
		愛知県		全国	
		指数	対前年(同期)増減率	指数	対前年(同期)増減率
2010	年間	91.6	23.6	94.4	16.4
	1-3	95.4	54.1	94.6	28.0
	4-6	93.0	33.3	95.3	21.3
	7-9	90.7	17.9	94.3	14.0
	10-12	87.9	1.1	94.2	5.9
2011	年間	84.6	-7.6	92.2	-2.3
	1-3	83.9	-10.9	92.8	-1.3
	4-6	74.8	-20.8	88.9	-5.8
	7-9	90.0	-2.0	93.7	-0.9
	10-12	89.7	2.5	94.1	-1.6
2012	年間	-	-	-	-
	1-3	97.1	19.0	95.3	4.8
	4-6	99.8	32.4	93.4	5.3

注1: 期別の指数は季節調整済指数

2: 対前年同期増減率は原指数から算出

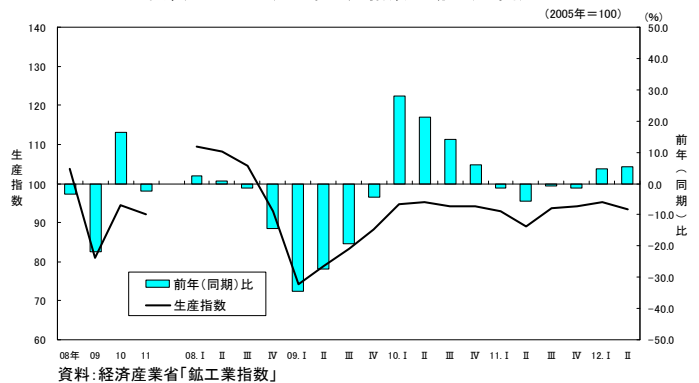
資料: 愛知県統計課「愛知県鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業指数」

図表4-4 鉱工業生産指数の動き(愛知県)



資料: 愛知県統計課「愛知県鉱工業指数」

図表4-5 鉱工業生産指数の動き(全国)



資料: 経済産業省「鉱工業指数」

(上昇した投資財、低下した消費財・生産財)

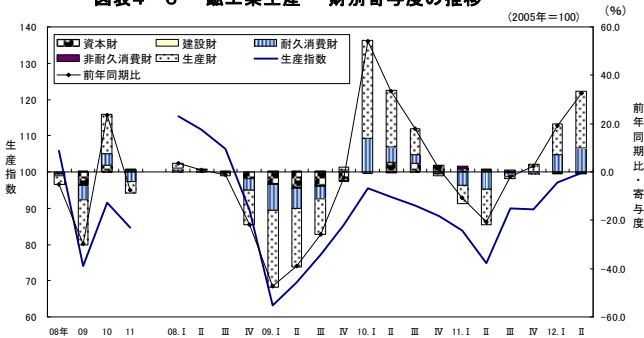
本県における2011年の生産を財別にみると、投資財のうち資本財は、国内及び海外の設備投資の増加の動きを受けて前年比8.0%増と2年連続で上昇した。また、建設財は、公共工事の減少が続いていることなどから同4.7%減と5年連続で低下した。投資財全体では、同5.1%増となり、2年連続の上昇となった。

消費財のうち耐久消費財は、乗用車の減産などにより同19.0%減となり、2年ぶりの低下となった。また、非耐久消費財は、飲料などが増加したことから同4.7%増と5年連続で上昇した。消費財全体では同14.2%減となり、2年ぶりの低下となった。

生産財は、自動車部品などの減少により、同7.8%減と2年ぶりの低下となった。

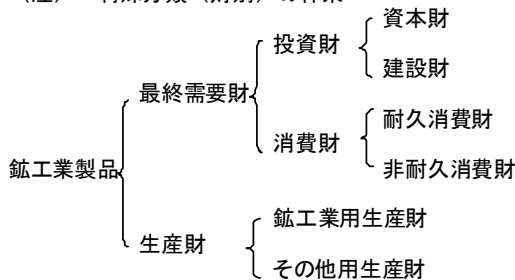
このように、11年は、投資財が前年から上昇したものの、消費財と生産財は前年から低下した(図表4-6)。

図表4-6 鉱工業生産 財別寄与度の推移



資料:愛知県統計課「愛知県鉱工業指数」

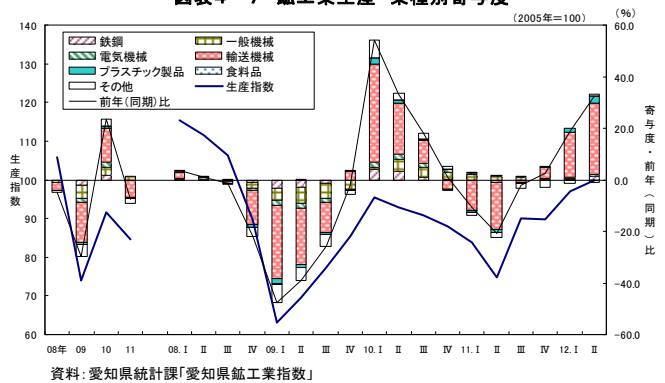
(注) 特殊分類(財別)の体系



(主要業種の動向)

2011年の主要業種の動向をみると、一般機械と電気機械は2年連続、食料品は2年ぶりに前年を上回る一方、震災やタイの洪水被害によって生じたサプライチェーンの寸断により、輸送機械が前年を大きく下回るとともに、プラスチック製品と鉄鋼も2年ぶりに前年を下回った。業種別の寄与度をみると、最もウェイトの高い輸送機械の低下寄与が極めて大きく、全体(前年比7.6%減)の約9割を占めている(図表4-7)。

図表4-7 鉱工業生産 業種別寄与度



資料:愛知県統計課「愛知県鉱工業指数」

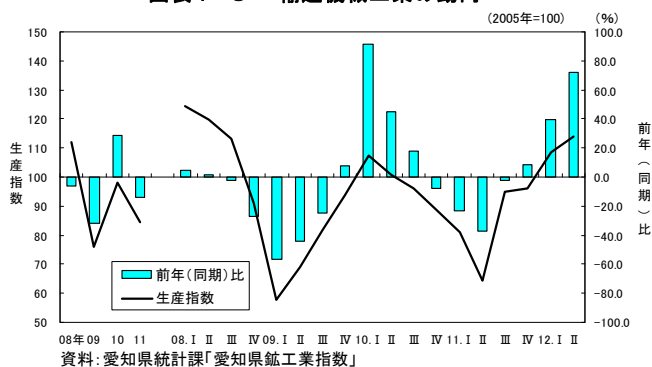
(輸送機械工業)

本県の基幹産業である輸送機械の2011年の生産指数は84.6で、前年比13.6%減となり、2年ぶりに低下した。これは、震災やタイの洪水被害による部品不足などの影響から乗用車(同19.7%減)等が低下したことによる。

11年の生産指数の動きを四半期別にみると、1-3月期から4-6月期にかけては、震災の影響による落ち込みが他の業種に比べて特に大きかったが、その後急速に回復し、7-9月期には震災前10年10-12月期の水準を上回り、続く10-12月期には前年同期比でプラスに転じた。

12年に入っても1-3月期、4-6月期と生産指数、前年同期比とも上向きの動きが続いた(図表4-8)。

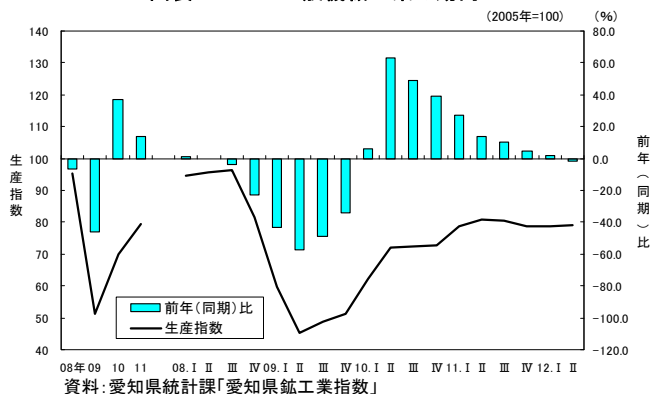
図表4-8 輸送機械工業の動向



〈一般機械工業〉

2011年の一般機械の生産指数は79.5で、前年比13.6%増となり、2年連続で上昇した。これは、金属加工機械(同10.0%減)等が低下したものの、海外向けの増加などから、金属工作機械(同46.7%増)、機械工具(同21.3%増)等が上昇したことによる。

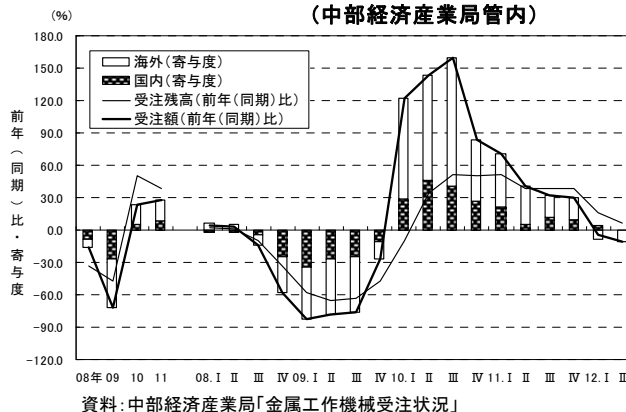
図表4-9 一般機械工業の動向



「金属工作機械受注状況」で中部経済産業局管内の金属工作機械メーカー主要8社の受注状況をみると、前年比41.1%増と2年連続で前年を上回った。国内受注は同35.5%増と、2年連続で前年を上回った。業種別では、一般機械工業(同43.8%増)、自動車工業(同28.3%増)など造船業以外の業種が前年を上回った。海外受注は同43.8%増と、2年連続で前年を上回った。地域別では、北米向けが同58.0%増、ヨーロッパ向けが同64.0%増、アジア向けが同24.4%増と2年連続してそれぞれ前年を上回った。国別では、アメリカ向けが中国向けを抜い

て2年ぶりに1位になるとともに、中国向け、タイ向け受注は過去最高額を記録した(図表4-9、4-10)。

図表4-10 金属工作機械の受注動向
(中部経済産業局管内)



〈鉄鋼業〉

2011年の鉄鋼業の生産指数は88.3で、前年比3.0%減となり、2年ぶりに低下した。これは自動車向けの減少などから、冷間仕上鋼材(同9.3%減)、鍛造品(同3.3%減)等が低下したことによる(図表4-11)。

図表4-11 鉄鋼業の動向

